三晃精機が発売
らくらく電動運搬車
安全・安心・楽に楽しく

三晃精機㈱（笹岡元信社長・奈良県大和高田市東三倉堂町7の13）は、収穫した果実など重い荷物を急斜面やでこぼこ道でも楽に運べる安心・安全操作の電動運搬車「らくらく号」を発売した。

前進と後進が親指のワンタッチで簡単に操作できる。電源を入れ手元のレバーを押すと前進し、離すと確実に止まる安全設計。スイッチの切り替えだけで後進も容易にできる。標準仕様は電動一輪車本体に直径12・5㌢の補助輪を2個付けた三輪タイプで、安定感は抜群。力をほとんど必要とせず、女性や高齢者にも扱いやすい。

車輪内部に電気モーターを組み込んだインホイールモーターを採用し、小型化と馬力アップを実現。車輪外側にチェーンがないため草木などが引っ掛かる心配もなく、安全に走行する。

同運搬車は、柿栽培が盛んな奈良県下市町栃原（とちはら）地区をフィールドに奈良女子大や県農業研究開発センターなどと一緒に2011年から進めてきた、高齢者が楽に楽しく長く続けられる農業のあり方を開発する「らくらく農法プロジェクト」で共同開発し、同地区で柿農家に急斜面など様々な畑で実際に使ってもらい改良した。笹岡社長は「農業は高齢化が進んでいてお年寄りの人が斜面で働いている。そういう人たちが少しでも長く農業を続けられるようにという思いで開発した」と話す。

「らくらく農法」は科学技術振興機構・社会技術研究開発センターが採択したプロジェクトで、同活動は昨年、高齢化など地域の課題解決に向けた先進的取り組みを表彰する第2回プラチナ大賞（プラチナ大賞運営委員会など主催）優秀賞も受賞している。

新製品は幅55㌢、長さ140㌢、高さ65㌢で、20㌔用収穫コンテナを最大4個積める。最大25度の斜面でも80㌔までの荷物を載せて運ぶ能力がある。

家庭用100㌽電源で約8時間充電し約6時間使える。電池残量は3色LEDランプでわかりやすく表示。夜間作業に便利なLEDヘッドライトや、現場で充電できるソーラーパネルもオプションで用意した。

税別価格は補助輪付きが21万円（一輪車本体のみは19万9000円）、樹脂製荷台ボックスやLEDライト、ソーラーパネルも付けたフル装備仕様が27万円。

問い合わせは同社（☎0745・52・0025）へ。

安全・安心・簡単操作の電動運搬車「らくらく号」

でこぼこ道や坂道で威力を発揮する

高い安全性、快適
ミニショベル

キャタピラージャパン㈱（東京都世田谷区用賀4の10の1）は、優れた狭所作業性および後方安全性を活かし、道路工事や配管工事において高い能力を発揮する「FIGA（ファイガ）030ESR ミニ油圧ショベル超小旋回機（バケット容量0・09立方㍍、機械質量2・[illegible]「FIGA SR ミニ超小旋回機量0・11質量3・6売した。

今回発売ショベル2ぞれ従来機ンジ。いず

水中ホッケーアジア大会
サタケ社員が出場
秘書室勤務の廣本泰介さ

㈱サタケ（佐竹利子代表・広島県東広島市西条西本町2の30）に勤務する社員が、今月13～15日にインドネシアで開催される水中ホッケーアジア国際親善大会の日本代表メンバーとして出場する。

代表チームの一員として選ばれたのは、同社経営本部秘書室に勤務する廣本泰介さん、31歳。

廣本さんは高校時代に水球部、大学時代に水泳部に所属。㈱サタケには2012年に入社した。

翌2013年に東広島市の水中ホッケーチーム「Hiroshima Sha-rea」（ヒロシマ・シャーレア）に加入後、数々の国内大会に出場するなど実績を重ねて、今回、晴れの代表チームのメンバーに選ばれた。

水中ホッケーは、2つのチーム（1チーム6名）に分かれ、プールの両端にゴールを設置し、小型の団扇のようなスティックでゴム製のパックを相手方のゴールに入れるスポーツで1954年にイギリスで誕生した。

息を止めている時間だけしかプレーができないため、息止め能力が要求されるほか、声が届かず視界も遮られることから敵味方の位置を3次元的に想定しながらプレーする必要がある。

わが国での現在の競技人口は約200名にとどまっているものの、世界的には競技人口が増加している。

水中ホッケーの競技会は2年に1度開催される世界選手権のほか、アジアでも隔年でアジア国際親善大会が開催されており、6回目となる今年の同親善大会は今月13～15日にインドネシアのタンゲラン市で開催される。

参加出場国は、日本、中国、インドネシア、シンガポール、フィリピンの5カ国。

日本代表は、男子チーム2組、女子男女混成チ6組、総勢優勝を目指る。

日本代表に泰介さん

㈱サタケ